

ファジィ目的関数のロバストでソフトな最適化

01009545 広島大学 *乾口雅弘 INUIGUCHI Masahiro
01202665 広島大学 坂和正敏 SAKAWA Masatoshi

1. はじめに

ファジィ数理計画法では、「だいたい a 以下」という形のソフトな制約を満たす解や、係数の取りうる範囲を考慮したロバストな解などが求められている。このようなソフト性やロバスト性は、ファジィ目的関数や区間目的関数の最適化にも導入されている。係数のすべての取りうる値に対して最適となる必然的最適解 [1] は、ロバストな性質をもった最も合理的な解といえる。しかし、区間目的関数の必然的最適解は存在しない場合が多いという欠点がある。これに対処するため、係数のどのような取りうる値に対しても、真の最適値からの隔たりが大きい最大リグレット最小解 [2] や最悪達成率最適解 [3] が提案されている。これらは、ソフトな最適性規準に基づいたロバストな解である。ファジィ目的関数の必然的最適解についても、存在しても必然的最適性の度合いが低く、十分に係数値の可能性が考慮されていない場合が多いという欠点がある。

本研究では、最大リグレット最小解の概念を拡張し、ファジィ目的関数に対するソフトな最適性規準に基づいたロバストな解について考察する。この解は、必然的最適解を緩和したものであり、必然的ファジィ最適解と呼ばれる。まず、ファジィ目的関数をもつ線形計画問題を取り上げ、必然的ファジィ最適解を定義する。次に、ファジィ目的関数が区間目的関数に退化したとき、最良必然的ファジィ最適解が最大リグレット最小解と等価になることを示す。最後に、最良必然的ファジィ最適解の計算方法を提案する。

2. ファジィ目的関数をもつ線形計画問題

次のファジィ目的関数をもつ線形計画問題を考える。

$$\begin{aligned} & \text{maximize } cx \\ & \text{sub. to } x \in X = \{x \mid Ax \leq b\} \end{aligned} \quad (1)$$

ただし、 A は $m \times n$ 行列であり、 $x = (x_1, x_2, \dots, x_n)^t$, $c = (c_1, c_2, \dots, c_n)$, $b = (b_1, b_2, \dots, b_m)^t$ である。 c_j は次のメンバシップ関数をもつ L-R ファジィ数 $\Gamma_j = (c_j^L, c_j^R, \alpha_j, \beta_j)_{L, R_j}$ に制限された可能性変数である。

$$\mu_{\Gamma_j}(r) = \begin{cases} L_j \left(\frac{c_j^L - r}{\alpha_j} \right); & r < c_j^L \\ 1; & c_j^L \leq r \leq c_j^R \\ R_j \left(\frac{r - c_j^R}{\beta_j} \right); & r > c_j^R \end{cases} \quad (2)$$

ただし、型関数 $L_j, R_j : [0, +\infty) \mapsto [0, 1]$ は $L_j(0) = R_j(0) = 1$ なる上半連続な非増加関数である。なお、実行可能集合 X は有界と仮定する。

以後、次のファジィ集合 Γ を用いる。

$$\mu_{\Gamma}(c) = \min_{j=1,2,\dots,n} \mu_{\Gamma_j}(c_j) \quad (3)$$

3. 必然的ファジィ最適解

c を目的関数の係数ベクトルとする通常の線形計画問題 (1) 式を考える。最適値との差が大きい目的関数値をもつ実行可能解は準最適解と考えることができる。このようなソフトな最適性の観点から、最適値との差に応じてメンバシップ値を与えることにより、次のファジィ最適解集合 $Opt(c)$ が定義できる。

$$\mu_{Opt}(c)(x) = \inf_{y \in X} \min(\mu_{Dif}(cy - cx), \chi_X(x)) \quad (4)$$

ただし、 $\mu_{Dif} : \mathbf{R} \mapsto [0, 1]$ は非増加関数とする。また、 χ_X は X の特性関数である。

ファジィ最適解集合をファジィ目的関数をもつ線形計画問題の場合へ拡張することを考えれば、可能性測度に基づくものと必然性測度に基づくものとの2種類のもの定義できる。本研究では、ロバストでソフトな最適解を論じるので、必然性測度に基づくものを取り上げる。必然的ファジィ最適解集合 $\square Opt$ は次のように定義される。

$$\mu_{\square Opt}(x) = \inf_c \max\{(1 - \mu_{\Gamma}(c)), \mu_{Opt}(c)(x)\} \quad (5)$$

いま、擬逆関数 μ_{Dif}^* を

$$\mu_{Dif}^*(h) = \sup\{r \mid \mu_{Dif}(r) \geq h\} \quad (6)$$

とし、 $h^0 = \mu_{\square Opt}(x)$ と定義すると、

$$\begin{aligned} & \mu_{\Gamma}(c) > 1 - h^0 \text{ ならば,} \\ & \text{任意の } y \in X \text{ について, } cy - cx \leq \mu_{Dif}^*(h^0) \end{aligned} \quad (7)$$

が成立する。これより、メンバシップ値が $1 - h^0$ より大きい c が実現すれば、必ず最適値との差が $\mu_{Dif}^*(h^0)$ 以下になることがわかる。

必然的ファジィ最適性に基づく、最も合理的な解は、

$$\text{maximize } \mu_{\square Opt}(x) \quad (8)$$

